

## 取組みテーマ：自分の思いや考えが伝わるように書く力を育てる授業

### 背景・取組みの方向性

これまでの全国学力・学習状況調査や東大阪市標準学力調査の結果分析により、国語に課題があり、特に書く力に課題がみられた。具体的には「主語と述語がぬじれる」「助詞や句読点、接続詞が使えない」「自由記述の問題では無解答が多い」等のつまずきが見られた。

課題を共有する中で教員からは、「子どもたちは書き方がわからず困っているので、書けるように支援をしないとけない」「子どもたちの書く力はどれくらい付いているかを正確に知りたい」「書く力のゴールを明確にわかるように指導していきたい」という意見が多くあり、「自分の思いや考えが伝わるように書く力を育てる授業」をテーマに、子どもの書く力の育成に取り組むこととした。

### 具体的な取組み① 書く系統表の作成

### 具体的な取組み② 書く力を高めるための支援

#### 書く系統表を活用した授業設計

- ◎ 単元でつきたい力を明確にした言語活動を設定し、ゴールにおける子どもたちの姿をイメージする
  - ・【書く系統表】をもとに、子どもの完成作文（成果物）を教員が先にして持ち寄り、イメージを具体化する
  - ・言語活動は、つきたい力が育まれる活動か、子どもたちが主体的に相手意識や目的意識をもって活動できるものか、探究的な課題となっているかなどを考えて、【言語活動例】を参考にして設定する
- ◎ つきたい力を育むための指導計画と、評価規準・評価方法を設定する
  - ・【書く系統表】を職員室に掲示し、書く領域の指導の際に教員がすぐ確認できる環境を作る
  - ・【書く系統表】の目標を確認し、子どもたちへの指導と評価が適切かどうか考える
- ◎ 単元のまとまりを見直し、一単位時間の学習活動を設定する
  - ・各一単位時間の学習活動は、題材設定の時間なのか、考えの形成の時間なのか、推敲の時間なのか、共有の時間なのか等、どの段階の時間（指導事項）かを意識して授業を行う



(別添資料1) 書く系統表

#### 書く力確認プリント

- ◎ 各学年の目標を基に条件付き自由記述問題を実施
  - ・同じ問題を年3回実施（PDCAサイクル）
  - ・評価基準を設ける（5〜7項目）

**ポイント**  
各学年の目標を可視化・共有  
指導要領に書かれている指導目標を系統的に【書く系統表】にシンプルにまとめ、教員が確認できるようにする



(別添資料2) 言語活動例

▶ 書く系統表を活用することで、教員が他学年の授業についても興味を持ったり、つながりを意識するようになったり、次年度へつながる指導を心がけるようになった。

#### 日記作文指導

- ・全クラス週1回以上書く
- ・型のある『書く』と、思いを綴る『書く』のバランスを考える
- ・原稿用紙の見開き1ページを基本とする
- ・各クラスに掲示する
- ・題材の工夫
- ・相手、目的意識をもたせる
- ・学期に1回、学校統一のテーマ作文を実施する
- ・原稿用紙の使い方を確認する

#### 授業中のふりかえり指導

- ・他教科でも考えの記述には理由と根拠を書く
- ・ふりかえりの書き方を具体的な言葉で示す
- ・ふりかえりに題名をつけたり、キーワード（観点）をもとにふりかえったりする
- ・全クラスでノートの共通事項（日付、めあて、ふりかえり）を設定する



#### ポイント 書くための多様な支援

- ・例文や型を示す
- ・例文を 視写→例文を推敲→短作文のサイクルで練習する
- ・書いた作文やふりかえりを共有する
- ・一つの作文には、めあてを一つにする
- ・思考ツール等を使い、教員と一緒に題材を探す
- ・教員はできていること、いいところに着目してほめる

▶ 多様な支援をすることで、自分の思いや考えを書く分量が増えた。

## 取組みの成果と課題、今後に向けて

- ◎ **成果**
  - ・全国学力・学習状況調査の児童質問紙の「国語の授業では目的に応じて自分の考えとそれを支える理由との関係がわかるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」の肯定的回答が全国平均を上回った。
  - ・どの教科でも書くことに抵抗がなくなってきた。また、作文では文章量も少しずつ増え、段落も意識して書くことができるようになってきている。
  - ・自分の意見や思いをなかなか書くことができなかった子どもも、スモールステップの手だてや友だちと意見を共有すること、励ましの言葉により少しずつ書くことができてきた。
- ◎ **課題**
  - ・型のない自由記述については、主語と述語を使って自分の考えや思いが伝わるように文章を書くことに、まだ苦手な子どもが多い。
  - ・条件を読むことに慣れてきているが、問題を理解する力（読解力）が弱い。
  - ・複数の情報の中で何が必要なのか吟味する力が不十分な子どもが多い。
- ◎ **今後に向けて**
  - ・視写の活用（主語述語を意識する・気になる文に線を引き、理由を書く）
  - ・「読むこと」の領域の指導計画や言語活動の吟味
  - ・「情報と情報との関係」について指導を充実

